

空き家空き地地域利用バンク 空き家等利活用希望団体登録情報

■基本情報

(ふりがな)	ごいのいけしょうこうえんびりよくはなくらぶ
団 体 名	五位ノ池小公園美緑花クラブ
HP アドレス	

■利活用希望者情報

会 員 数	32 人
団 体 の 種 別	自治会
活 動 の 概 要	神戸市立五位ノ池町小公園を、神戸市と協力して公園の美観の維持向上に努め、地域コミュニティ形成を図ることを目的に活動している。(2015 年発足) 「住民が集い、草花や蝶と親しめる公園づくり」を目標に、会員が蝶の好む草花を公園や庭先で育てる「ちょうちょの舞うまちづくり」などに取り組んでいる
活 動 の 実 績	毎月 1 回の、公園内の清掃・除草、花緑の植栽作業や蝶の好む草花の栽培講習会、蝶とのふれあいイベント等の活動を実施している。これにより、人と自然が触れ合える潤いの場づくりに貢献しているとして、2016 年「兵庫県人間サイズのまちづくり賞」花緑部門の知事賞を受賞した。 2021 年度「ながたのキレイなところ」(長田区役所発行) のカレンダーに紹介されている。

■物件の希望条件・意向

希望の契約形態	貸借
希望の物件	空き地
希望のエリア	長田区
利活用の目的	●五位ノ池町1丁目の入り口付近に、阪神・淡路大震災以来放置された空き家があり、瓦礫と雑草に覆われ、景観・害虫・防犯上支障が生じていた。 ●このため、5年程前に自治会関係者から、当会に「瓦礫に花を植えてほしい」と依頼があり、五位ノ池小公園美緑花クラブの有志が、空き地に草花を植えて花が咲き、住民に喜ばれている。 ●この度、土地の所有者とけいやくして、充実した神戸市の「空き地地域利用整備事業補助」を受けて、瓦礫などを撤去を行い、「人と蝶の憩いの場、バタフライガーデン」として整備し、地域コミュニティの拠点として利用
特記条件 利用の時期・期間	今すぐ利用したい ・契約後3年以上 ・月1度の維持管理活動

活動のご紹介


2015年(平成27年)7月11日 土曜日



アゲハなど十数種類飛び交う



植わった草花の間を飛び交うチョウ

長田をチョウ舞うまちに 五位ノ池町住民 草花植栽で“歓迎”

チョウが好む草花を各家庭や公園で育てて「ちょうちよの舞うまち」を目指す活動に、長田区五位ノ池町1、五位ノ池町小公園周辺の住民が取り組んでいる。30世帯の新旧の住民が1回の植栽や講座に参加。活動3年目の今年、さらにアゲハやモンシロチョウ、ルリシジミなど十数種類が飛び交うようになった。(金 慶福)

同公園は2013年、周辺の新興住宅「チョウの道」を形成する一環で整備された。住民の声を一つずつ配つた。花の水やりを手伝う。横本敏明さん(63)が、五位ノ池小公園1年代表を務め、区の助成の泊田就君(6)は金で活動する。

当初は植物が少なかつた公園に、現在はアゲハやモンシロチョウ、フタトシゴキ、チョウの道にチョウが好む草花を植栽し、アゲハやモンシロチョウ、ルリシジミなど十数種類が飛び交うようになった。定例の手入れもいノスクナや幼虫がい交流になりま」と

種類以上が種わっている。毎月第1日曜の朝に50人以上の親子が集まり、手入れをする。昨年度には、鉢植えのフタトシゴキを家庭に一鉢ずつ配布。それに一鉢ずつ配布。それに一鉢ずつ配布。それに一鉢ずつ配布。

神戸新聞

発行所
神戸新聞社
〒650-8571
神戸市中央区東川崎町
1-5-7
<http://www.kobe-np.co.jp/>

THE 地域

公園にパンジーを植える住民たち。神戸市長田区五位ノ池町1丁目



チヨウが結ぶ住民の絆

六甲山系の高取山を北に望む神戸市長田区の五位ノ池町地区。住宅街の一角にある小さな公園で、「チヨウの舞う街づくり」計画が進む。担い手は住民たち。草花を植え、そこに集まる多様なチヨウが、地域につながるを生んでいる。



草花植えて「舞う街」計画

公園にパンジーを植える住民たち。神戸市長田区五位ノ池町1丁目

日曜の朝、約30人が「五位ノ池町小公園」に集まった。幼い子から働き盛りの世代、年配の夫婦まで顔ぶれは様々。チヨウの好む草花を公園に植える月1回の定例整備だ。

公園の外周にある花壇を掘り返し、土をふかふかにしてパンジーを1株ずつ植えた。スミレ科の花は、黄色い羽に黒い斑点が美しい「ツマグロヒヨウモン」を呼び寄せられる、と期待する。

参加者の一人、永井健一さん(39)は2年前、公園の近くに一軒家を建てた。この日は公園に土運び入れる力仕事を率先した。妻の美紀さん(40)は苗植えを担当し、そはで娘の心海ちゃん(5)と増ちゃん(2)が「チヨウチヨ、かわいい」とはしゃいでいた。

地区には古くからの街並みと、新たに開発された宅地が混在する。公園は開路にあわせ、2013年3月にできた。

五位ノ池町4丁目の自治会長、角南好則さん(84)は「地域にどんな人が暮らしているか、お互いを知り、交流をはかる場になっていきます」と言う。活動を担うのは、住民グループの「五位ノ池町小公園美緑花クラブ」だ。代表の橋本敏明さん(65)はこの地域に40年近く暮らす。公園は神戸市が管理しているが、当初は地味な低木が中心で彩りが少なかったという。「もったいない。もっと街に緑を」と13年4月にグループをつくった。

活動開始から3年半。橋本さんは近所の子どもたちに「チヨウチヨのおっちゃん」と呼ばれるようになった。「チヨウはこの地域を結んでくれる。取り組みを次世代につなぎ、自然人も豊かに」と願う。

公園を美しく保つ団体に助成する市の制度を活用し、花や木の苗を購入。「ただ、植えるだけでは」とチヨウの好む草花や花を選び、約30世帯が持ち回りで水やりと草取りなどを担当している。

橋本さんによると、約1500平方メートルの公園で、年間を通じて約80種類の草花や木を植え、約40種類のチヨウが確認されているという。



五位ノ池町に生息するチヨウの標本を見せる橋本敏明さん。神戸市長田区五位ノ池町1丁目

(山崎雄史)